

令和5年度 南丹市立殿田中学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

学校教育目標		学校の現状分析	学校経営方針(中期経営目標)		
<p>人権の尊重を基盤として、ふるさとを舞台に広い視野で考え、自ら学び、主体的に行動する、心豊かな人間の育成</p> <p>＜めざす生徒像＞                      ○生命と人権を大切に、生き抜く力をもった生徒                      ○いつまでもふるさと日吉を愛する生徒                      ○グローバルな視野で考えることができる生徒                      ○学ぶ意欲と学ぶ力を身につけた生徒                      ○思いやりをもち仲間と協調して取り組める生徒</p>		<p>●生徒は大変落ち着きある状況であり、学級生活満足度も確実に向上している。一方で、さらに人権感覚を高める機会を意図的につくる必要もある。また、不登校生徒・別室生徒も多い。</p> <p>●英検や外部コンクール等に挑戦する生徒数の増加が見られるものの、生徒の主体的・対話的で深い学びを引き出す授業づくりと、家庭学習習慣の定着という面では依然課題がある。</p> <p>●地域道徳や生徒会活動の取組により、郷土愛・感謝に関して成果が見られる。一方で、「考え議論する道徳」の授業については課題が残る。</p> <p>●指示に対して真面目に取り組むが、将来に対する展望や、失敗を恐れず挑戦する姿勢と自己表現する姿勢に依然弱さが見られる。</p> <p>●地域道徳の取組や生徒会活動の活性化により、コミュニティ・スクールとして地域との連携・協働の取組が少しずつ進んでいる。</p>	<p>○人権感覚を高め安心して学べる環境づくりに努める                      ★お互いを尊重し、主体的に話し合い、仲間とともに活動できる集団を育成する</p> <p>○主体的、対話的で深い学びを実現する授業づくりを推進する                      ★教員の授業力向上や家庭学習習慣の確立により、生徒の学力向上を進める</p> <p>○道徳や特別活動を充実させ、豊かな人間性を育む                      ★道徳や生徒会活動の活性化を進め、多様性を認め協調性のある人間関係を育む</p> <p>○将来を見据えたキャリア教育の充実を図る                      ★様々な地域人材活用や体験活動の実施により、将来展望と自己管理能力を育成する</p> <p>○コミュニティ・スクールとして地域との連携・協働を充実させる                      ★学校運営協議会とPTAとの連携・協働を一層深め、熟議内容の実現に向け取組を進める</p>		
学校経営の重点(短期経営目標)		成果	評価	課題	改善策等
人権教育	<p>◆全教育活動の基盤となる人権意識の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの完全否定を100%の生徒が回答する</li> <li>学校は楽しいと回答する生徒を80%以上にする</li> <li>生徒の学級生活満足度を70%以上にする</li> <li>人権学習を、各学期に計画的・系統的に実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめについては99%が否定回答であった。</li> <li>学校は楽しいとの回答割合は80%</li> <li>学級生活満足度の上昇(62→70%)</li> <li>人権旬間を位置づけ、全校一斉に準備と指導を進めることができた。内容についても一部見直しを進めることができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権学習の見通しを持った指導準備と指導計画の作成という点では課題が残った。</li> <li>人権学習指導後の指導内容に対する総括と修正の積み重ねが不可欠である。</li> <li>生徒の確かな学力定着が最大の人権教育であるとの認識が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権学習の授業公開を実施し指導力量を高め、指導後の総括を次年度に活かす。</li> <li>日頃より教員自らが互いを尊重する姿勢を生徒に示していく。</li> <li>「安全・安心な風土の醸成」の視点を重視した学級・学校生活の維持を目指す。</li> </ul>
学力向上	<p>◆学びに向かう力と学び方を育てる授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習30分未満の生徒を10%以下にする</li> <li>年2回の公開授業週間での相互参観を重視する</li> <li>主体的、対話的で深い学びのある授業の実践を進める</li> <li>ねらいに迫るICT利活用による、分かる授業を進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員の年2回の公開授業により、ICTの利活用、授業改善が一定進んだ。</li> <li>タブレット端末の活用状況把握や、生徒への学習の働きかけが少しずつ増えてきた。</li> <li>AIドリルすらら・ファイル学習等、個別学習の取組が一定進んだ。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習時間30分未満割合が依然多い。</li> <li>各教科に対する興味・関心の数値の低さ</li> <li>言語活動の充実については、日頃の生徒の表現力・発信力も含めて課題が残った。</li> <li>公開授業週間での参観者の少なさ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業と主体的学習に繋がる家庭学習課題の開発と取組の工夫。</li> <li>AIドリルを含めたさらなる個別学習の充実</li> <li>言語活動の充実を目指した授業改善</li> <li>公開授業週間の効果的な運用</li> </ul>
道徳・特別活動	<p>◆道徳・生徒会活動の活性化による豊かな人間性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>殿中行動宣言の具現化に向けた取組を年3回以上実施</li> <li>自分には良いところがあるとの割合を70%以上にする</li> <li>生徒指導3機能を下に、自己指導能力向上に努める</li> <li>考え議論する道徳の実践と授業改善を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「郷土愛」並びに「地域への感謝」に関わる地域道徳の様々な取組を実施できた。</li> <li>自分には良いところがあるとの回答割合が大幅に上昇した。(62→80%)</li> <li>生徒を評価する様々な機会設定を心がけた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>発問を絞って、生徒に考えさせ授業を深める工夫ができていない。</li> <li>「考え議論する」道徳に向け、授業づくりシートの活用等、教材準備がさらに必要。</li> <li>ケースリストへの入力や活用には組織として課題が残った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「考え議論する」道徳に向け、教材準備をしっかり進め教材内容を押さえる。</li> <li>学級経営の充実に向け、「安全・安心な風土の醸成」の視点もさらに押さえる。</li> <li>ケースリストの効果を活用を図り、対象生徒一人ひとりの現状把握と手だてを考える。</li> </ul>
キャリア	<p>◆将来を見据えたキャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来の夢や目標がある生徒を80%以上にする</li> <li>失敗を恐れず挑戦する生徒を70%以上にする</li> <li>地域人材・体験活動による様々な価値観の投げかけ</li> <li>スケジュール手帳の効果的活用に向けて働きかける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域人材による講演、職業体験等の結果、将来に対しての見通しや学習意欲を高めることに繋げることができた。</li> <li>高みをめざす学校全体としての機運が徐々に高まっている(英検や作文コンクール等)。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の夢や目標があるとの回答割合が目標値を下回った。(73%)</li> <li>失敗を恐れず挑戦するとの回答割合が目標値を下回った。(64%)</li> <li>進路選択に向け、将来を見据えた家庭学習の重要性に気づかせる指導の工夫が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特活や講演会等の時だけでなく、日々の授業や生活の中でキャリア教育の視点をもって考える機会をつくる。</li> <li>進路実現に何が必要かを考え、自ら学習に向かおうとする気持ちと習慣を養う。</li> </ul>
地域連携	<p>◆コミュニティ・スクールとしての地域との連携・協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会(5回以上)と熟議を開催する</li> <li>各学年、地域住民を交えた親子道徳を1回行う</li> <li>学校運営協議会とPTAが共に活動する機会をつくる</li> <li>地域貢献の取組実施により、生徒の成功体験に繋げる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒やPTA会員を交えた効果的な熟議の結果、様々な地域道徳の取組を実施できた。</li> <li>“支えられる側から支える側へ”を意識した取組を進めることができ、生徒の成功体験・自己肯定感に繋げることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年、年1回の親子道徳を実施し、それぞれ道徳的価値観を深めることができたが、地域住民を交えることはできなかった。</li> <li>学校運営協議会とPTAが共に活動する機会を十分に設定できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会とPTAが共に活動する機会の設定。</li> <li>生徒・PTA・地域住民を交えた熟議の継続。</li> <li>地域貢献の取組を続け、地域との繋がりを深めると共に、生徒の自己肯定感を育む。</li> </ul>

◎各目標数値並びに回答結果数値は、アンケートで肯定的回答(「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」)が得られる数値合計の割合としています。

◎評価については、「A・B・C・D」の4段階表記とする。(A:十分な成果が見られた、B:成果が見られた、C:課題が見られる、D:課題が大きい)